

第
16
回

全国川サミット in 荒川

～川の恵みとその脅威～

共 同 宣 言

荒川は、その源を甲斐・武蔵・信濃の三国にまたがる甲武信ヶ岳に発し、奥秩父の溪谷を一気に流れ下り、関東平野の田畑を潤し、あたかも自然な川であるかのように、首都・東京の低地をととと流れ、海へと注いでいます。

「第16回全国川サミット in 荒川」は、昭和初期に放水路として開削された荒川下流のまち・江戸川区に17の市区町村が集い、全国川サミット初となる流域自治体の協働のもと、「川の恵みとその脅威」をテーマに開催いたしました。

豊かな自然環境や広々とした水辺空間に、あるいは、荒ぶる川を治めてきた先人の労苦に深い感謝の念を表すとともに、大河の恵みを後世に引き継ぐことを共に誓い合い、ここに宣言します。

- 1 私たちの暮らしに潤いをもたらす「川の恵み」を守り育て、自然豊かな水辺空間のさらなる創出を図ります。
- 1 先人の労苦と治水の歴史を教訓に、これまでにない大水害の危機に立ち向かう強固な河川整備を推進し、災害に強い安全・安心のまちを築きます。
- 1 すべての人々に、川の恩恵・川の尊さを強くアピールし、川を慈しむ心を次世代に伝承します。
- 1 源流の地から最下流のまちまで、流域に暮らす人々が互いに思いを馳せ、さらなる連携を深める流域協働のまちづくりを推進します。
- 1 川と人の関わり、川とまちの未来を語り合うため、全国の川に関わる人々との友好の輪を広げます。

平成19年10月27日

第16回全国川サミット in 荒川参加者一同
代表 江戸川区長 多田 正見